

2023年度CUC市民活動サポートプログラム自己点検・評価

評価項目	CUC市民活動サポートプログラム 実施組織による自己分析	自己分析に基づく社会貢献分科会の評価
1.開設の趣旨について	<p>受講生アンケートの結果として、満足度は「満足した」「やや満足した」が89%であった。また、以下に記載したコメント等、受講生から声が寄せられた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スポーツによる地域活性化を目指しているNPO活動に役立てていきたい。 ・いろいろなカテゴリーの授業があった。全体的に授業時間が短いので、今後どのように活かしていくかは自分次第だろう。 ・市民活動を進めていく上でのマインドのほぐし・再構成に役立ちました。個々の視点・手法・ツールは、場面に応じて活動に役立てていきます。（戦略マップは、団体の新年度活動の議論たたき台を作って使い始めています。） 	開設の趣旨を十分に満たしていると判断できる。
2.教育の成果について	<p>2023年度は全体で7科目（必修7科目）開講しており、正規履修生10名のうち9名が一定の成績を収め履修証明書を交付された。</p> <p>※1名については、自身の活動の都合により欠席が多かったこと、レポート未提出により交付対象とならなかった。</p> <p>受講生アンケートの結果として、理解度は「よく理解できた」「大体理解できた」が84%であった。また、以下に記載したコメント等、受講生から声が寄せられた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ワークショップは初対面の人ともスムーズにコミュニケーションを取ることが出来るものだと、実際自分が体験したことで実感することが出来ました。ワークショップを行うためのツールもいろいろあることも知りました。出来ればもっといろいろなツールを体験し、今後高齢者向けの教室で取り入れてみたいと思います。 ・マーケティングやNPO,管理会計、地域分析、管理会計などの学びが、多角的に考える視点を持つきっかけとなったので、実現したい企画案を出す際には、より具体的な数字や事例を出して様々な立場から実現の可能性を探っていきたいと思います。 ・クラウドソーシング演習では、実際にアウトソーシングすることで、人に伝える難しさや自分の力を超えたものを外部に依頼する大切さを学びましたので、今後活かしていきたいです。 	教育の成果について十分な教育効果があったと判断できる。
3.受講生に対する支援について	<p>講義に関する支援については、指導教員が適宜対応を行ったが、一部、教員の遅刻があり、講義の進行に支障が生じた。その点で改善の余地がある。改善策としては、教員への講義に関する事前連絡の際に、遅刻をする場合は必ず当日の受付担当に連絡する旨の周知をより徹底し、連絡がない場合は、受付担当、事務局で連携し、教員への連絡、受講生へのフォローを行う。また、講義の進行に支障が生じた場合には、担当教員が受講生のフォローをすることを徹底し、その内容について事務局に報告をすることとする。</p> <p>また、欠席の際の教員への質問の方法等、受講生からの運営面での問い合わせについては担当職員が適宜対応した。</p> <p>また、6月、9月、12月、3月に交流会を開催し、地域活動発展のための受講生同士・修了生・地域・教職員との交流の機会を設定した。交流会には、いちかわTMO講座受講生をはじめとした、新規参加者が各回、約半数となり、新たな出会い、交流の機会を提供することができた。</p>	概ね評価項目を満たしていると言えるが、一部講義運営の面で改善の余地がある。
4.自己点検の環境について	2020年度より各科目の終了後及び全授業の終了後に授業アンケートや総合アンケートを実施している。また、外部の方々を招聘し開催している社会貢献分科会において、アンケート結果等を参考にプログラムに関する意見を頂戴し、必要に応じて次年度以降のプログラム運営に反映させることとしている。	十分に自己点検の環境について整備されていると判断できる。
5.広報活動について	<p>2023年度は以下の広報活動を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本学ウェブサイト掲載 ・地域連携フォーラムでのブース出展など本学開催イベントでの告知 ・いちかわライフネットワーククラブウェブサイト掲載 ・ちいき新聞イベント情報サイト掲載 ・自治体関連(広報誌掲載、メルマガ掲載、パンフレット設置) ・学生、教職員への告知(ポータルサイト・メール) ・過去受講生、イベント参加者等へのメール配信 ・本学教職員、外部講師、受講生による勧誘活動 ・卒業生への告知(チラシ送付、LINE) ・保護者への告知(教育後援会役員会での告知、LINE) ・「元気いちかわ会」での告知 <p>結果、定員数10名のところ、幅広い年齢層、さまざまな地域から正規履修生10名、部分履修生1名と定員を超えた申し込みがあった。</p>	十分に広報活動を行ったと言える。
6.施設等の設備について	<p>対面授業時には机稼働式の教室を使用することで、双方向型授業やグループワーク等に対応している。</p> <p>また、図書館や共有PCの利用を可能としている。</p>	十分に施設等の設備について適切に運用されていると判断できる。